

“コイルプロセッシング”がベーステクノロジー。
豊富な商品群を開発し、
システムエンジニアリング機能を強化



油谷 紘明 社長

株式会社ユタニ
本社：〒547-0011 大阪市平野区長吉出戸5-1-7
TEL.06-6709-8505
http://www.yutanico.com

■プレス用コイルラインと

シャー・スリットラインが2本柱

1937(昭和12)年の創業である。自動車、ニューマチックツール関連の部品加工業としてのスタートであった。そして、加工業からメーカーへの転身を図り、現在の業態を作り上げたのが1979(昭和54)年に後継した油谷紘明社長だ。造管機用アンコイラなどの受注製作からプレス用フィーダ、シャーラインなどの汎用機製作へと幅を広げ、折りからのモータリゼーションの波に乗ってメーカーとしての業容の拡大を確立していくことになる。

その後のユタニは、“プレス用コイルライン”ならびにシャーラインやスリッターラインなどの“コイルラインシステム”を2本の大きな柱として充実した商品ラインナップを図り、その他、サーボトランスファー、シャーウエルダー、塗油装置などの関連装置類を同社が有する豊富な製品群に加えている。商品ラインナップの基幹となるベーステクノロジーは“コイルプロセッシング(Coil Processing)”だ。

■コイルプロセッシングを深化したトランス用部材切断ラインとコルゲート成形ライン

油谷社長は“コイルプロセッシング”の9文字を事業の中心に据えて商品展開を図ってきた。コイ

ルプロセッシングとは文字どおりコイルを処理する技術、言い換えれば送材技術である。加工、モノづくりの原初となるコイルの送材技術を深化し、自社の特異技術としてきたことにユタニのオリジナリティがある。造管機から始まり、プレス機、シャー、ロールフォーミング、炉などへのコイル送材へとアプリケーションの幅を広げてきているが、その根底にあるのはコイルプロセッシングをエンジニアリングして製品化するという油谷社長の確たる姿勢である。

その成果のひとつとして大きく花開いているのがコイルセンター、鋼材商社向けの各種シャーラインだ。ロータリーシャーライン、スウィングシャーライン、スリット&カット複合ライン、ドラムシャーライン、ラミネートライン、テンションコントロールライン、ミニロータリーシャーなど商品構成は実に多彩。高速対応のロータリーシャーは1分間で60mの走行速度を持ち、上刃が走行速度に追従して水平往復運動しながら同期制御でカッティングを行う機能を有する。昨年11月のJIMTOF2008に出展した500幅/1.6tのミニロータリーシャーは、長さ250mを1分間に200カットする高性能機として注目を集めた。

さらに最近特に注力しているのがトランス用放

電板用の“斜角鉄心切断ライン”とトランスケース冷却用“波成形機(コルゲートマシン)”だ。斜角鉄心切断ラインは、±45°に高速・高精度に位置決めするスウィングシャーとサーボクランプによるセンタレグ加工を特徴としており、ピアシング、Vノッチ、斜角切断から搬送・パイリングまでをワンパスで行う機能を有する。珪素鋼板が加工対象だけに精度要求も厳しい。その対応としてかえりゼロを実現し、角度切断も百分台を維持する。薄鋼板にも対応し、t0.2mmも加工範囲に入れている。

トランスケース冷却用の波(フィン)を成形・切断するコルゲート成形ラインもコイル送材からの一貫ラインだ。コイルプロセッシングのアプリケーションシステムである。コイルカー、アンコイラ、レベラー、コルゲートマシン、搬出コンベアでラインを構成する。成形時に波高さ分の送りを油圧シリンダーに代えてACサーボドライブを採用し、高速化と位置決め精度の向上を図っていること、波成形の決め押し工程で油圧サーボ方式を採用し、成形精度の向上を図っていること等も大きな特徴だ。ライン装置のコンパクト化と油圧ユニット容量の削減を実現している。

電力・発電用大型トランスの需要は堅調である。斜角鉄心切断ライン、コルゲート成形ラインとも国内ではユタニのオンリーワン技術となっており、油谷社長はコイルプロセッシングをベースとしたエンジニアリング技術をさらに高度化していく考えだ。

■プレス用周辺装置に50年の実績
海外展開も積極的に推進

レベラーフィーダなどプレス用周辺装置にも40年近い実績を有する。アンコイラ、レベラー、

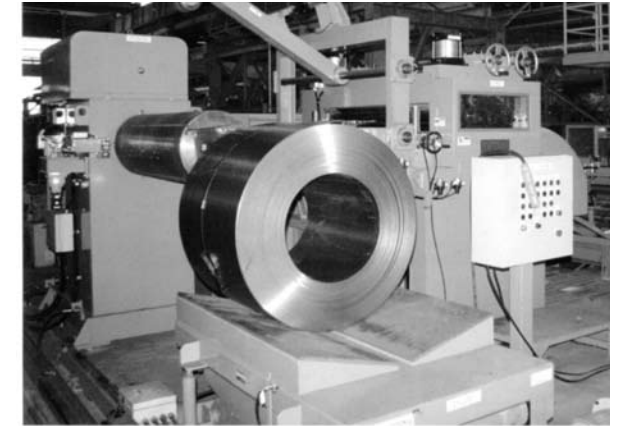


写真2 トランス用コルゲートマシン

NCロールフィーダ、NCレベラーフィーダなどプレス用コイル送材装置ではフルラインナップを図り、周辺装置メーカーとして業界に確たる根をおろす。レベラーフィーダの分野では板厚20mm、板幅1800mmまでの厚板・広幅材の開発実績を持ち、一方では超精密NCロールフィーダ、高速NCロールフィーダなども得意分野とするなど対応力は幅広い。

JIMTOF2008に出展した厚板用レベラーも大きな反響を得た。出展機は幅650mm、板厚6.5mmの銅板を通板する本格的なヘビーレベラー。13本のワークロール、ミッドロール、バックアップロールがそれぞれ上下に配置され、個別に調整可能なシックスハイレベラーだ。下側調整ができ、前面に取り出してロール交換ができるのも大きな特徴である。

油谷社長の目はいま大きく世界に向けられている。情報収集、技術収集にも怠りはない。輸出実績も、中国・韓国はもちろんのこと、ASEAN各国、米国、英国、メキシコ、スロバキア等と多岐にわたる。“コイルプロセッシング”“コイルエンジニアリング”をコアテクノロジーとしてグローバルな展開を目指している。



写真1 ステンレスの3mm×1300幅レベラーシャーライン